
marvelous

猫乃アキヒト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

marvellous

【Nコード】

N2955S

【作者名】

猫乃アキヒト

【あらすじ】

僕達は誰もが、大きくなっただけの子供

(前書き)

9 m m P a r a b e l l u m B u l l e t の「m a r v e l o
u s」という曲を元にしています。

「そう、決めたんだ」

「うん。あっちの方に行く事にした。やりたい事があるから」

そう言って君は遠くの方をみつめている。

会えなくなる訳じゃない。電車でたった数時間。電波だって届く。

「自分で決めたんだね」

「うん。反対されたけど、僕の事だから。僕が決めた」

「……ついていけたら、良いんだけど。親とか、迷惑かけちゃうから」

私はココに残る。君はココを出て行く。

自分で決めた事だ。少なくとも君は。

「……あっちの方にはさ、海が無いらしいんだ」

君はゆっくり口を開く。

「今の内に見納めしておきたいんだけど、ついてきて貰って良いかな」

君は海の方を指差した。

私はゆっくりうなずいた。

ココには海がある。

キレイな訳でも有名な訳でもないけれど、そこそこ広い砂浜と、

どこかにつながる海がある。

「おー、子供が遊んでるよ。冬だったのに、良くやるなあ」

「あ、でも砂で遊んでるだけみたいだよ。ほら、山作って……壊した!？」

一人が砂で山を作って、一人がそれを壊して、皆がそれを笑った。二人でしばらく、子供達をながめていた。

波のそばを走って、目と目が合うたびに、声を上げて笑って。

「離ればなれになっても、空はつながってる」

そんな事を一人が言った。

アニメかなにかの台詞だろうか。そうだとしたら、子供向けのアニメも馬鹿には出来ない。

「良いね。さっきの」

「……え？」

「離ればなれになっても、空はつながってる、ってさ。」

……僕達もそうやって、解り合えた事にしよう」

君は悲しそうな顔をした。

私はうなずけなかった。

ココを出て行く日。駅のホームで電車を待つ。

君はずっと俯いたままで、何かを考えてるみたいだった。

何か言わなきゃ。もうずっと会えなくなるのに。

例えば電車で数時間でも。

例えば電波が届いても。

大人になるとは、そういう事だ。きっと。

「あのさ、砂浜で子供見てから思ってたんだけど」

君は突然口を開いた。

「大人ぶった所で、解り合った所で、結局僕達は僕達なんだ。

忘れかけていたけど、僕達はあの子供達となにも変わらない。行動範囲が広がって、体が大きくなったただけなんだ。きっと」

何か吹っ切れた様な顔で私を見る。

「でさ、子供は親に迷惑かけるモノだと思うんだ——いう多分違うっていうか僕は既にかけてるんだけど——だからさ、僕も迷惑かけようと思うんだけど、君はどう？」

君はポケットから二枚の切符を取り出した。

私はたくさんうなずいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2955s/>

marvelous

2011年4月7日15時28分発行